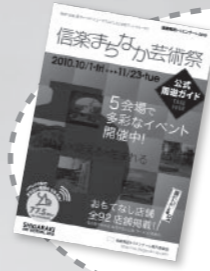




Design: GRAPHCOS Naoto Ando

# 信楽まちなか芸術祭



「信楽まちなか芸術祭」のみどころや、おもてなし店舗の情報満載の「公式周遊ガイド」を無料配布します。

10月1日、いよいよ開幕

11月23日までの54日間

1200年の伝統を誇る信楽焼は、日本六古窯の一つにこそえられ、全国の多くの方々に愛用されています。産地である信楽のまちには、陶都といわれるやきもの文化とともに、風味豊かな朝宮茶や歴史が語る紫

香楽宮跡が息づいています。これらの豊かな甲賀市の宝を全国に発信するため準備を進めてきた信楽陶芸トリエンナーレ2010「信楽まちなか芸術祭」がいよいよ10月1日から54日間にわたり開幕します。

「信楽陶芸トリエンナーレ2010」は、10月1日午前9時15分、陶芸の森会場でのテープカットにより開幕します。オープニングイベントとして、同日午後1時30分から六古窯首長サミットが行われます。中嶋市長首長サミットが行われます。中嶋市長

長のほか備前焼(岡山県備前市)・丹波焼(兵庫県篠山市)・越前焼(福井県越前市)・瀬戸焼(愛知県瀬戸市)・常滑焼(愛知県常滑市)の各市町長が出席し、六古窯の世界進出についての意見が出し合われます。

また、長野地区を中心としたまちなか会場をはじめ、4つの会場でもさまざまなイベントが一堂にスタートします。公式周遊ガイドを無料でお配りし、各所に案内所も設けておりますので、ご家族連れで秋の信楽をご堪能ください。

## まちなか会場

工房と生活の場が一体となった長野地区には多くの窯元が集まっています。窯元散策では、こうしたまちなかを歩き、日常の製造風景の見学や、作り手とのコミュニケーションにより日々の暮らしに息づく信楽焼にふれていただけます。

信楽で活躍する陶芸作家の作品を一堂に展示する信楽の「今」陶芸展や、中世から現代までの信楽焼の歴史をたどる土と炎のおくりもの、高校生と陶芸作家のコラボによる信楽高等学校ワークショップ展など、さまざまな展示が行われます。



秋の里山風景や点在するアート作品を眺めながらまちなか散策をお楽しみください。

## 朝宮会場



朝宮茶と信楽焼では、朝宮茶の歴史や製造工程、信楽焼の茶器などを紹介します。香り高い朝宮茶をぜひご賞味ください。11月23日には、「朝宮茶まつり」が開催されます。

「朝宮茶まつり」が開催されます。

## 陶芸の森会場

やきものファンおなじみの信楽陶器まつり(陶器即売会)・セラミック・アート・マーケットin陶芸の森2010、日常の暮らしに新たな生活シーンを提案する信楽ライフ・セラミックス展、2人の作家にスポットを当てた特別展「しがらきやき一直方の茶陶 春斎の壺一」など、見どころいっぱいです。

※「信楽まちなか芸術祭」へのご来場、駐車料金等は無料です。



会場案内図

## 紫香楽宮会場

遺跡調査の成果資料や遺物などを展示する秋季企画展「大仏と万葉歌のふるさと紫香楽宮」や、宮のあった当時の風景を陶人形により表現する紫香楽宮天平ロマン展を開催します。また、地域の農作物や軽食を提供する天平の地ふれあい市場や、歴史遺産の見どころをガイドする紫香楽宮たっぴりウォークⅡでは、地域の人々がおもてなしします。

## MIHO MUSEUM会場

芸術祭の期間中、秋季特別展「古陶の譜 中世のやきもの一六古窯とその周辺」を開催します。六古窯で生産された代表作品を中心に、各地で生産された優品をあわせて約170点を展覧し、中世のやきものの魅力とその全体像に迫ります。



真剣な表情で作陶する中嶋市長▶

## イベントの展示品に中嶋市長も作陶

このほど、中嶋市長が信楽焼の窯元で、茶碗の作陶にチャレンジしました。これは、「信楽まちなか芸術祭」のイベントの一つ「日本六古窯サミットin甲賀」の中で、信楽・備前・丹波・越前・瀬戸・常滑の日本六古窯の産地の首長が、それぞれの産地の粘土を使って、成形乾燥した陶芸作品を持ち寄り、室町・桃山時代の穴窯を再現した陶芸の森の金山窯に窯詰し、焼き上げる「室町・桃山再現焼成プロジェクト」への出品用として3作品を作り上げたものです。

中嶋市長はじめ各首長の完成品は、11月上旬に会場でご覧いただけます。